

## 1. 鶴見区 50 年のあゆみ

鶴見区は、昭和 49 年 7 月 22 日の行政区の再編により、旧城東区より分区して誕生し、令和 6 年に区制 50 周年を迎えました。区名の由来ですが、鎌倉時代に、源頼朝が富士山の裾野で巻狩(四方から狩場を囲んで獲物を捕らえる狩り)をしたときに、千羽の鶴に金の短冊をつけて放したところ、この地に飛来して住み着いた。その鶴を見物に来る人が多く、「鶴見」という呼び名がついたという言い伝えがあります。

区内には、寝屋川が東西に流れ、西三荘水路下水路と古川が北から南に流れて寝屋川に合流し、東部には井路(いじ)と呼ばれる古くからの水路が残っていますが、昔は道路の代わりにさらに多くの水路が張り巡らされ、人々は小舟に農具や収穫した農作物を乗せて移動する交通網の役割を果たしていました。

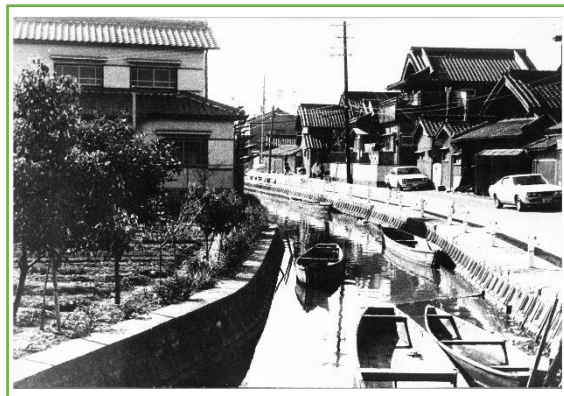
鶴見区を代表する景観が、都市公園として府下最大規模を誇る花博記念公園鶴見緑地です。豊かな自然環境とともに、バーベキュー広場、乗馬苑、パークゴルフ場、咲くやこの花館、球技場やスポーツセンターなど多くの施設が整備され、平日・休日を問わず、多くの方々に親しまれています。平成 2 年の国際花と緑の博覧会はこちら鶴見緑地で開催され、多くの来場者にお越しいただくとともに、地下鉄長堀鶴見緑地線の開通や花博通(都島茨田線)の整備など社会インフラが急速に整備され、鶴見区発展の契機となりました。その後、JR 放出駅周辺の再開発により高層マンションが建設されるなど、区内の開発は継続的に進められています。

現在の鶴見区は、人口 11 万人を抱え、15 歳未満人口が 24 区で最も高い、若い世代にとっても魅力のある区として存在感を発揮しており、区制 50 周年を機に、「つながり、ふれあ

い、みまもり、支えあう、誰一人取り残さない、安心して暮らせるまち」を目指しさらに飛躍していきたいと考えています。



月岡芳年「大日本名将鑑 右大将源頼朝」  
(東京都立図書館HPより)



安田の井路(水路)